

BPT (バイオマスプロジェクトチーム) だより No.11

http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm



平成 17 年 9 月 16 日 (金)
バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. 事業の進捗状況 等

○ 木質バイオマス利活用実用化促進事業

第3次炭化試験(9月14~16日)と併行して、炭化処理時に発生する温熱の効果的な利用に関する基礎データを収集するため、8月に併設された排熱利用施設における試験が9月8日から開始されました。今後、冬季まで通して木材乾燥に係る排熱利用試験が実施される予定です。

炭化試験施設に併設する排熱利用施設



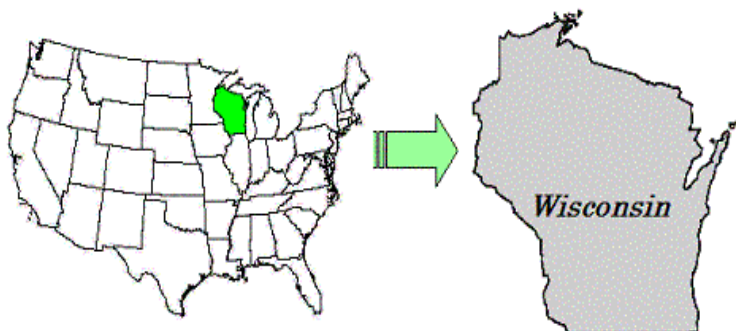
○ 山田町での農林水産バイオリサイクル実証研究

9月12日~14日にかけてプラント群の連結運転を行い、各種サンプルを採取しました。メタン自動車へのメタンガスの充填も開始されています。

○ 米国ウィスコンシン州へのバイオマス使節団派遣

千葉県は、平成2年にアメリカ合衆国ウィスコンシン州と姉妹県州の提携を行い、文化、教育の分野を中心に相互に使節団を派遣する等、友好親善を深めてきました。

これらの交流を、学術、経済など様々な分野に広げ、県民主体の姉妹交流を推進するため、平成16年5月に民間姉妹交流組織「千葉ウィスコンシン協会」が設立されています。9月8日~16日にかけて、同協会からウィスコンシン州への使節団が派遣されました。派遣団にはバイオマス分野から3名も加わっています。詳細は次号以降に報告します。



ウィスコンシン州は北海道とほぼ同じ緯度であり、人口は千葉県とほぼ同じですが、面積は約28倍です。

工業、観光産業、酪農業のバランスが取れ、特にアメリカの「酪農王国」として知られている州であり、主要酪農製品として、チーズ、バター、ミルク、子牛肉などがあります。

2. 国・大学・市町村等との連携

○バイオマス・ニッポン総合戦略推進アドバイザーグループ会合への参加

第7回目となるバイオマス・ニッポン総合戦略推進アドバイザーグループ会合が都内で開催されました。(9月9日)

千葉県は、会合に先立つワーキンググループ会合に青森県と共に出席し、バイオマス・ニッポン総合戦略見直しに向けた提言を行いました。(8月24日)

○第3回「山武町バイオマスタウン構想推進委員会」の開催

山武町長、山武町議会議員4名も加わり第3回山武町バイオマスタウン構想推進委員会が実施されました。(8月25日)

町の経済環境課が取りまとめた構想案について、バイオマス資源年間処理量の明確化や町民への普及啓発の必要性等といった意見が出されました。

構想案は修正された上で国に9月中に提出される予定で、提出されれば千葉県内から初めてのバイオマスタウン構想申請となります。



山武町長挨拶

○第1回バイオマス勉強会の開催

バイオマスへの理解、県内市町村との協力・連携を深めるため、県内市町村バイオマス担当者との勉強会を県庁で実施しました。(9月13日)

県内23市町村から30名の自発的な参加者が集まり、千葉県内のバイオマス利活用状況について概要説明後、各市町村でのバイオマス利活用について意見交換を行いました。

次回は「山武町バイオマスタウン構想策定に至るまで」をテーマに実施する予定です。

3. 普及啓発活動・その他

○月島機械(株)愛・地球賞の受賞



財団法人2005年日本国際博覧協会が主催(共催:日本経済新聞社)する「愛・地球賞」を千葉県から推薦した月島機械(株)の技術が受賞し、その授賞式が行われました。(9月1日)

同社は、木質バイオマスからエタノールを製造する実証プラントを市川市で稼働しています。

この賞は「自然の叡智」をテーマに2005年日本国際博覧会(愛知万博)を開催している同協会が、地球環境技術の普及と研究開発の促進を図ることを目的に、国内外の優れた技術を表彰したものです。(国内56件、海外44件の計100件が受賞)